

お知らせ



国土を整え、全力で備える
国土交通省中国地方整備局
鳥取河川国道事務所
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Chugoku Regional Development Bureau

平成28年10月20日

現場百景

～見る・学ぶ・楽しむ～

現場のイチオシ!

資料提供先 鳥取県政記者会
鳥取市政記者クラブ

「21世紀の山陰道を築く」 鳥取大学の学生が山陰道の工事現場を見学します！

平成28年10月25日(火)に、鳥取大学の学生が、鳥取西道路のトンネル工事現場を見学します。

今回の見学会は、将来の土木技術者を目指している大学生の皆さんを対象に、普段立ち入る事ができない実際の工事現場の見学をしていただくもので、知識習得の一助となることを期待しています。

●日時 : 平成28年10月25日(火) 9:00～11:30頃 小雨決行

●参加者 : 鳥取大学土木工学科の学生 約80名

●見学内容 : ^{とつとりにし}「鳥取西道路 ^{けたか}気高第1トンネル東工事」のトンネル掘削状況、トンネル坑口、仮設備等を見学します。
※現在、東側坑口から約300mを掘削中です。

●予定行程 : 2班に分かれて実施(約40名/班)
・第1班 見学時間 9:00～10:30
・第2班 見学時間 10:00～11:30

●見学場所 : ^{うつみなか}鳥取市内海中地内(別紙参照)

報道関係者の皆様へ

※現場見学を希望される方は、お手数ですが、見学会の前日までに表紙の問い合わせ先までご連絡ください。
(ヘルメット等の準備をさせていただきます。) また、当日は汚れても構わない靴でお越しください。

<参考>「現場百景」とは

完成後の姿だけでなく、建設中の状況や建設当時の話、普段は見られない施設内部、周辺の自然と一体となった四季折々の風景などインフラ施設のいろいろな景色(百景)をご案内します。

●詳細は、中国地方整備局HPをご覧ください。(http://www.cgr.mlit.go.jp/info/genba/ichioshi.htm)

問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 鳥取河川国道事務所

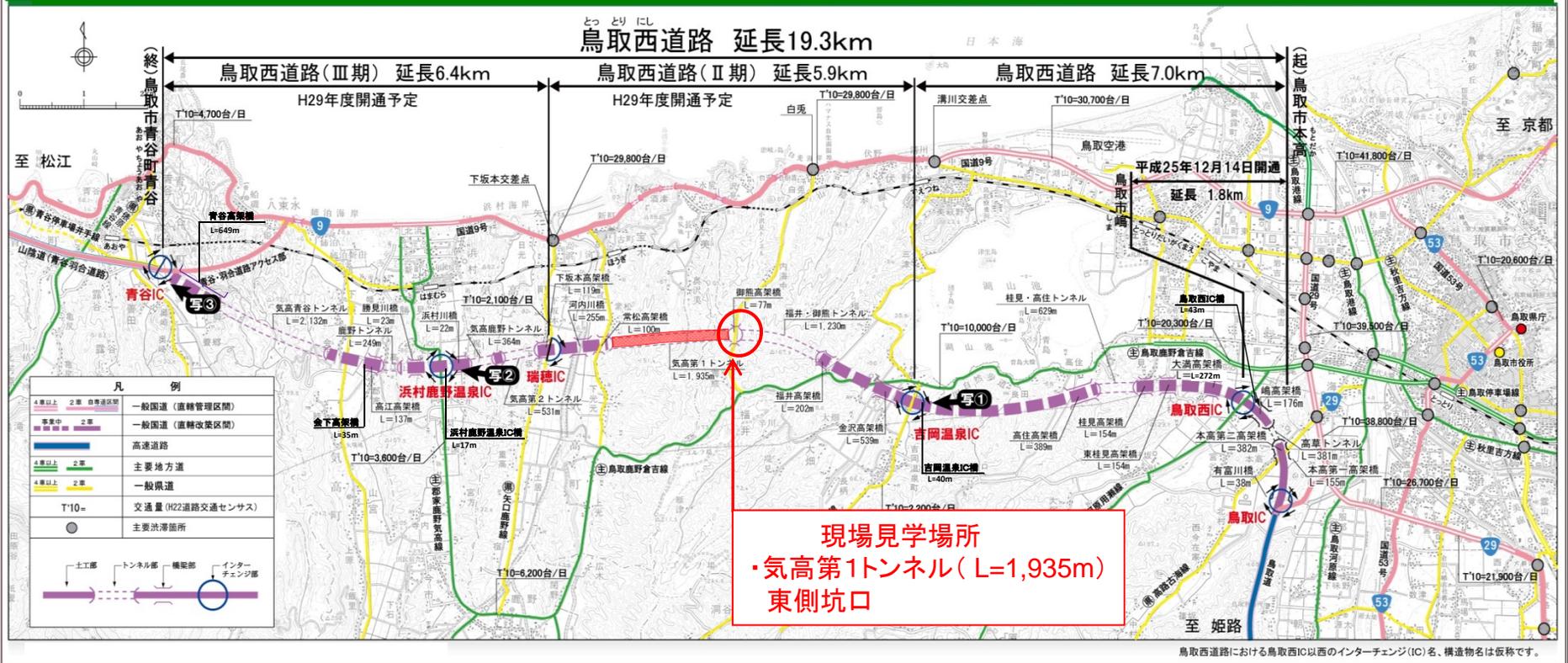
TEL 0857-22-8435(代表)

副所長(道路) 姫村 幸造 (ひめむら こうぞう)

【担当】 工務第二課長 藤原 康史 (ふじはら やすし)

※本資料は、鳥取河川国道事務所ホームページの「記者発表」ページでも公開しています。
鳥取河川国道事務所HPアドレス <http://www.cgr.mlit.go.jp/tottori/>

計画位置図



事業の概要

国道9号は、京都市から下関市に至る延長約755kmの主要幹線道路です。しかし鳥取県を東西に結ぶ唯一の主要幹線道路であるため、鳥取市内では朝夕及び観光シーズンに深刻な交通渋滞が発生しています。また、この区間は代わりとなる道路がないため、大きな事故や災害等の発生時には、日常生活はもとより、地域の経済活動に多大な支障をきたしています。

本道路は、緊急時の代替路線の確保、現道の渋滞緩和、観光・医療・物流活動を支援するとともに、山陰地方における高規格幹線道路網の一部を形成する路線で、広域交流の促進及び地域活性化に寄与する自動車専用道路です。

事業名	鳥取西道路(Ⅲ期)	鳥取西道路(Ⅱ期)	鳥取西道路
計画延長	6.4km	5.9km	7.0km
道路規格、幅員	第1種2級、幅員10.5m(2車線)		
設計速度	100km/h		
事業着手	平成20年度	平成19年度	平成17年度
工事着手	平成23年度	平成22年度	平成20年度

空撮写真



写③ 青谷IC付近(鳥取市気高町青谷地内)

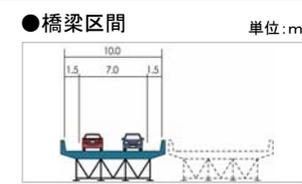
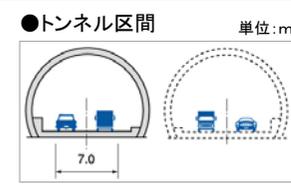
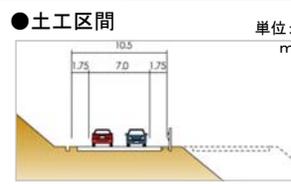


写② 浜村鹿野温泉IC付近(鳥取市鹿野町乙亥正地内)



写① 吉岡温泉IC付近(鳥取市松原地内)

標準断面図



※破線部は4車線完成

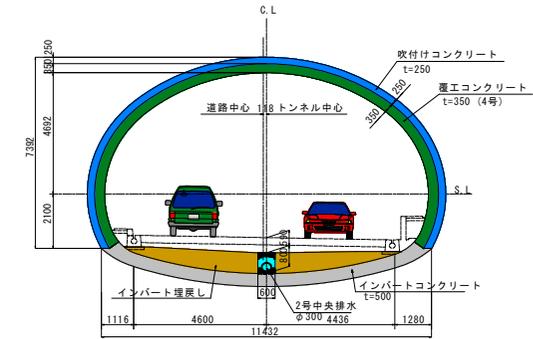
気高第1トンネル工事 詳細

気高第1トンネルは、一般国道9号鳥取西道路のうち鳥取市内海中から鳥取市気高町常松に至る全長1,935mのトンネルです。工事は、**内海中側からL=777mの区間を東工事**、気高町側からL=1,158mの区間を西工事として、両坑口から施工を行っています。

【工事箇所】鳥取市内海中～鳥取市気高町常松
 【掘削工法】NATM(ナトム) 補助ベンチ付全断面発破掘削工法(岩質 C)
 上半先進ベンチカット工法(岩質 D)

※NATM(ナトム)とは
 トンネルを掘削する工法のひとつで、ニュー・オーストリアン・トンネル・メソッドの略です。
 名前の通りオーストリアで開発され、1970年代頃から日本でも本格的に導入され、現在はトンネル掘削の標準工法となっています。
 トンネルを掘削していくとき、吹付コンクリートとロックボルト(鉄棒)を主体として使用し、トンネルの周りにある地山と一体となってトンネルを安定させていく工法です。

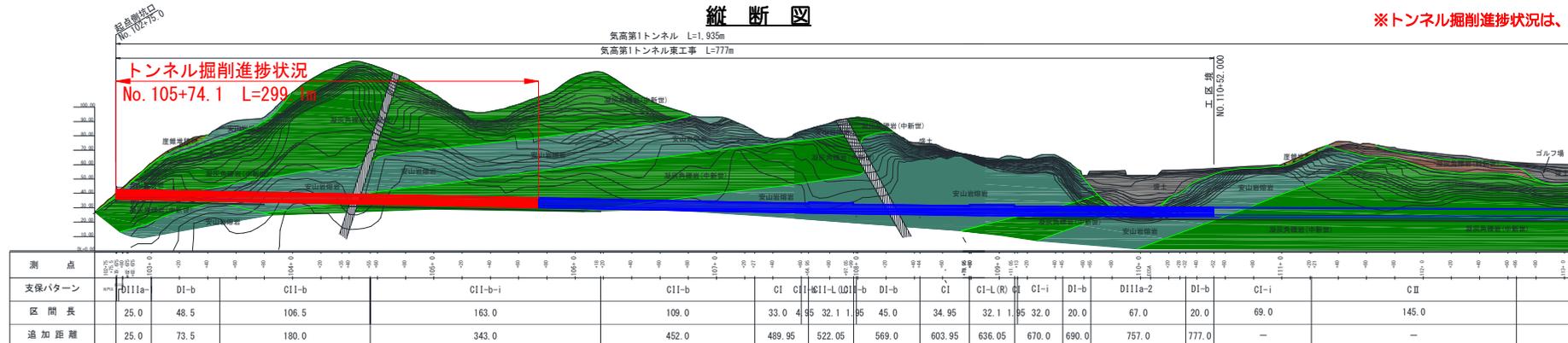
トンネル断面図



平面図



縦断図



※トンネル掘削進捗状況は、10/20時点です。

気高第1トンネル東工事 現場位置図

